

落語会に行ってきました。

武居 正次

令和7年6月20日(金)午後3時から板橋地域センター3階第一和室で実施された第9回健友落語会に行ってきました。

事業部員を中心としたスタッフが手慣れた様子で舞台上に高座を設え、平成25年(2013年)の第1回落語会から開催に携わる田村相談役の司会で会は進められ、田中会長の開会挨拶に続いていよいよ落語が始まりました。



出演者は、初めに春風亭三朝さん、次に柳家燕弥さんで、二人とも真打になる前から健友落語会や板橋落語会に出られており観客にも馴染み深い方です。

三朝さんの演目は「くしゃみ講釈」で、女性との仲を講釈師に邪魔された男が、胡椒を買って講釈師が出ている講釈場に乗り込んでそれをいぶしてくしゃみをさせて困らせてやろうと計画するも、「こしょう」という言葉を覚えられないために起こる一連の騒動を描いたものです。

胡椒と故障（差しさわり、不都合）を掛けたサゲ（オチ）が多少難解ですが、三朝さんが表情豊かに明るく演じる話に何度も笑ってしまいました。

燕弥さんは本題に入る前のマクラで、NHKの大河ドラマ「べらぼう」の第15話に出番は短いながらも出演した際のエピソードを語って場を沸かした後、演目の「笠碁(かさご)」に取り掛かりました。

元々は仲が良くて毎日のように囲碁を楽しんでいた二人の男がいて、ある日の対戦で「待った」を認めるか認めないかで喧嘩別れしてしまうが、日を経つうちにお互いに碁を打ちたくなり、だけでも素直に言い出せないもどかしくかつ滑稽な様子や最後に仲直りする顛末の話です。

それを燕弥さんが、派手さはないけど二人の気持ちがしっかりと伝わるように演じて非常に見ごたえ・聞きごたえがありました。

田中会長が冒頭の挨拶で、「目の前で落語を見られるのを楽しみにしています」と述べていましたが、まさにそのとおりで、間近の特等席で落語を聞いて終始笑っぱなしで楽しませていただきました。

今回は参加できなかった皆さん、ぜひ次の節目となる第10回健友落語会に足を運んでいただいて、一緒に笑って楽しい時間を過ごしましょう。

